

114  
A3368



金銀勝手賣買差許之事件之付以中越之次

尤之要故為之相考之姑息之取徧且稅則亦兼附

左之條之志中進出之熟讀之上凡て之布令且稅公

書亦ハ抄本省以綴之之申之度之事

第一條

一造幣寮へ銀地金他ヨリ持参セシ成ハ銀ハノ品位

以上ハ三分ノ手數料分拆料百分ノ一ヲ引キ中位ニ

銀錢製造ノ負數高ヲ收メ人工告知ニ外國人ハヨリ

インタルハシク日本入ハ御用為替方工為替手形ニ代リ

通貨ヲ渡スノ規則ナリ

大正十一年四月

第二条

一金地金ハ金九ノ品位以下ハ清取ナルナリ

第三条

一金ハ直價ヲ以テ美金一銀十五ノ比較ヲ以テ買揚ルノ姿ナリ故ニ直價銀錢ニ比スルハ金一銀十六セナリ之ヲ算スレハ畧一割ノ利益ヲ得ルナリ收人ニ一般本位ノ銀錢ヲ拂フヲ通常トス尤人ノ好ミニ依リ低位ノ金銀ヲ拂出スモ自由ナリ

第四条

一ヲリイシタルバンク又日本此往慥ナル為替方ハ則造幣

寮用達ニテ被等心ヲ用ヒ低價ノ金銀錢ヲ賣分拂フ時ハ政府ノ利益ヲ多クシ

第五条

一造幣寮ニ金銀地金收入ヨリ引清ルル金ハ千ヲシス銀ハ五千ヲシスヨリ下ルヘカラス地金ハ金ヲ受ル時ハ損失多ク

第六条

一吾國未タ財本甚少ニ故ニ金銀地金ハ輸出を嚴禁スル時ハ造幣寮ニ多く進入スル

第七条

金九銀ハヨリ低位ノ地金或ハ些少ノ金銀

金十五ヲシス銀五百ヲシス

當寮工進入スルハ則分拆局ハ差廻ニ被局分拆料  
且造幣ノ為三分ノ引千分ノ一分折料等差引他日  
造幣ニ損失ナキヤウ品位ヲ定メ代價相渡スノ順序ナリ  
第八條

官ノ鑛山ヨリ出ル金銀混合物ハ勿論當寮ニ廻着  
至ルナリ人民モ又望ミ從テ持参スルコト勝手タルニ

第九條

三職 鑛務 粉屋 酒屋 西條方并收稅規則ノ義ハ潰高ヲ  
十分取調ケ甚難ニ故ニ府藩縣ニ先布告ニ右等  
職業ノ者住所姓名書記出サシメ免許證書ヲ

遺ニ今ヨリ企望ノ者モノ管轄所ニ願差出シ其地方  
官ヨリ大藏省ニ右願書廻シ沙才免許證書下渡シ  
證書ニ左ニ通り職毎ニ稅高書付置年々地方官ニ  
納ルニ様致サハ如何

金銀鑛屋職一人ニ付 一ヶ年六兩

同 粉屋職一人ニ付 一ヶ年二拾兩

同 酒屋職一人ニ付 一ヶ年三拾兩

右様姑息ホ定メタルハ潰高ノ多少ヲ不跟トモ  
可ナラン其内進ミ百工諸商人モ公平ニ至當ノ  
稅則ニ準シ一ヶ年利益ノ何分ト云稅則ニ至ルニ

第十條

一外は是迄金銀下買屋ト唱ルモノアリ矢張向後モ  
同様商賣之躰ニテ然ヘキカ何トナレハ造幣寮ヘハ  
此少ノ金銀ハ第七條云ヘク清取ラサル故ニ此少  
所持之者ハ下買屋ト賣渡シ下買屋ニテ諸方金銀  
買集メ右貫數ニ付テ造幣寮ヘ持来リテ可ナラン  
元バンクノ高業ナリ故ニ大概在左ノ如ク兩替ノ爲ニテ  
スルモノ多シ此下買屋免許堂人年一年之税金三拾兩  
ニテ可ナラン

第十一條

一府藩縣ハ先是迄細吹所建築家業死在ル分ハ  
住所姓名且吹立高ホ書記出サシメ凡共之者ニ應ニ  
左ノ税則ニテ吹立高ホ迄免許證書ヲ發シ置  
自今ヨリ右職業者始メ發令出シ之者ハ則地方官  
申出同官ヨリ鑛山司ニ添書シ之免許札相發シ  
尤吹立高拾方以下ハ免許之難ニ何トナレ低キ高ク申立  
定業高キヤラ企テ患アリ

第十二條

一右吹立高兩出吹立地方官ヨリ一人差出シ吹銅極  
印ヲ打付又吹立之印ハ右様致ス時ハ凡テ極印多ク

銅の吹税通し之物ナレ出所あり速に詮議相付キ又  
荒銅よりモ兼テ吹所何所何案何案トモ定テ出  
サセ置クトキハ凡テ出山高ト細お急シ可申歟

極印お付余秘煩ニキ様ナレ出當時住友杯  
自分お付甚以容易ニテ一人一日三千板位お付  
ルモノナリ

先般伊藤少輔及馬在坂中 馬在坂中ニ在ル時  
香港在位ニシテ、ブラーガ勘定方トシテ在入ニ在  
ニテ一月百五十井之給料案約ニ彼方ヘキンドル  
及現在在在甘シク辭退ニ別後外國人ニ在入積

ニシテ在入ニ在入人トシテ在案約ニ在入ニ在入  
極越ハキンドルニシテ申出ニ極高ニ在入人物ニ在入  
越ニ在入前案約ニ在入ニ在入在入在入申出  
一當案遠案追テ在案ニ在入火災請合等中  
ニシテ在入且其外キンドルニシテ極中ニ在入在入  
極越ハキンドルニシテ在入在入在入在入在入  
中ニ在入在入在入在入在入在入在入在入在入  
在入在入在入在入在入在入在入在入在入  
大隈參議殿ニ在入在入在入在入在入在入在入  
全權在入在入在入在入在入在入在入在入在入

とて銀錢請造之取極多者其意以て  
其少取之り後也

一此便也中進公若殿石巻之者其軍以不許之者  
時々キンドルも假設之て日用亦困却はるる事  
能く我卿之も其地が其るる之を運以給以取身  
のりて後也

一當家は様地之義に河分以て其管領目人あり  
殊更其用給申一未夕以任兼以て後便之其義進  
事一進公其も其義者其義申進之也

庚午十月十日

井上大祐大進

金花堂

伊達大祐卿殿

伊孫大祐少輔殿

得能大祐大進殿

郷大祐大進殿

岡本大祐大進殿

開審定價之積り

一一圓銀

量七匁壹卜九厘三毛三糸

此純銀六匁四糸七厘四毛

一灰吹銀百目

品位九七

此精銀九拾七匁

此代拾四匁九千八匁三

内

四拾四匁九四四

三分通年銀料

拾四匁九八三

試驗料

差引)



残拾四圓三十八銭三六九

右ノ年ノ際ニ上ニ運價ニ付テ在當旬ニ因テ十分ニ分折  
積少ト爲テ誤欠アリテトテ及色残量及三ノ月ノ利息ヲ  
見込テ割引ニ付テ是迄モ以買上ニ事ナリ

精銀壹匁七厘七微七細  
七双ハトハニテ可ナラン

一十圓銀 量七拾五匁九分三厘三毫三絲

此純銀六拾四匁七分四厘

有千五分一

金四匁三分三厘六毫

金花堂

一精金百目

此代貳百三拾五圓六拾九匁六

内

六圓九拾五匁〇九 三分通百餘軒

或拾三匁七 或拾餘軒

差引

残或百或拾四圓五拾壹匁三六

内

或分通三匁三六

精金百目并或百或拾五 別百三拾或双替

新貨幣量目並性合之表

本位

一フランスハ  
則四百八十ゲレイン

凡我八匁三分三當ル

一圓

四百十六ゲレイン  
七匁一分九リ六毛

銀九銅一  
一インチ半

低位  
五十錢

二百八ゲレイン  
三匁五分九リ五毛

銀八銅二  
一インチ二分五リ

銀錢

二拾錢

八十三ゲレイン  
二匁四分三リ八毛六

銀八銅二  
十六分ノ十五

十錢

四十一ゲレイン  
七分九リ九三

銀八銅二  
十六分ノ十一

五錢

二十〇八  
三分三リ九六二

同上

低位

十圓

二百四十八ゲレイン  
四匁二分ハリハ毛

金九銅一  
經一インチ二分五リ

金錢 五圓

百廿四ゲレイン  
三匁一分四リ四毛

金九銅一  
經十六分ノ十五

二圓半

六十二ゲレイン  
一匁七リ二毛

金九銅一  
經十六分ノ十三

同上

一錢

但百枚ヲ以テ一圓ニ  
換フヘキモノ

百十ゲレイントローイ  
一匁九分ニ毛

經一インチ  
廿二分ノ三

銅錢 半錢

但二百枚ヲ以テ一圓ニ  
換フヘキモノ

五十ゲレイントローイ  
九分五リニ毛

經十六分  
ノ十四

一厘

但千枚ヲ以テ一圓ニ  
換フヘキモノ

十四ゲレイントローイ  
三分四リニ毛

經十六分  
ノ十

金花堂

凡貳分金百兩ヲ以テ百圓ニ比較ノ割合尤在来貳分  
金性合種々等差アリ故ニ定額トナラス

一圓

銀 六十目  
金 壹兩

五拾錢

銀 三十目  
金 二分

二拾錢

銀 十二匁  
金 三朱ト永十二匁五分

十錢

銀 六匁  
金 壹朱ト永三十七匁五分

五錢

銀 三匁  
永 五十匁

一圓を以て原位と之を以て本位の貨幣と其以下之  
小貨幣ハ其百倍ヲ准以即チ五十銭ハ五十圓ニテ成リ  
五銭ハ五圓ニテ成リ

一圓即チ原位ハ通例各種ニ於テ一グレイン半ノ差あるを  
要以即チ一圓ニ量目四百十四グレイン半ニ下ル又四百  
十七グレイン半より上ラるを以て正貨と其証合ノ分量を  
各種千分ニ即チ千分ハ百九十八を本とセ一貨幣ハ千  
分ハ九百ノ二迄ニ通用するものとス

金貨幣

### 銅貨幣

銅貨三種を製ス

一百分ノ一

一五百

一千

銅貨もポンドを以て量目を定ル各種一ポンド毎二十四  
グレイン前後の差アリ銅銭ハ証合を堅くせんク爲  
亜鉛相當ノ量を加へ純粋の銅を以て鑄造する積なりと  
於巨細ハ後日被知ス

### 金貨幣

金貨三種を製した

一十圓 量目二百四十八「ゲレントロイ」 恒合十分ノ九

一五圓 同 百二十四「ゲレントロイ」

一二圓半 同 六十二「ゲレントロイ」

此貨幣目方之差銀と小貨幣は同一恒合と差八十分  
と二金幣貨は其十倍と至る

一十圓ハ 百圓と至り

一五圓ハ 五十圓と至り

一二圓半ハ 二十五圓と至り

一新貨幣出来

九ノ百四拾ノ圓

右在来銀塊或方金并積或分金共ニ

一公然開察之儀を進行外國無令内地亦順之上  
進る由沙法有之故也

一公然開察之儀を進行内大花省儲蓄金を以製貨致  
及採造幣路に由沙法有之故也

但諸取後之儀を大坂出張古花省に反計可

中事

一本位紙位之製貨割合之儀を大花省儲蓄金  
有之付て左之割合を以製貨致

仰付度尤進る各種通用之割合を依り時々大花  
省に差圖可致也

百圓中

本位

四十圓

四十切

低位

五十錢

十五圓三十切

二十錢

十五圓七十五切

十錢

十五圓百五十切

五錢

十五圓三百切

低位

金錢

百國中

十圓

十圓 一切

五圓

三十圓 六切

二圓半

六十圓 三十切

一造幣家友負進退之儀造幣既見此以取斗

免職之旨以扁中上車職中付少長以扁中上

宣旨造幣既造以管職中付及及事

一度量速以改正之事

一造幣家為守衛兵隊六拾人一小隊為出及採

各部省之少少法之事

但尤出強之上禮義西處凡之造幣既以

請至取急情無之採以中付及及事

一官彼一乘之事

一學系造幣允儀外國行并十二歲位之小兒或人

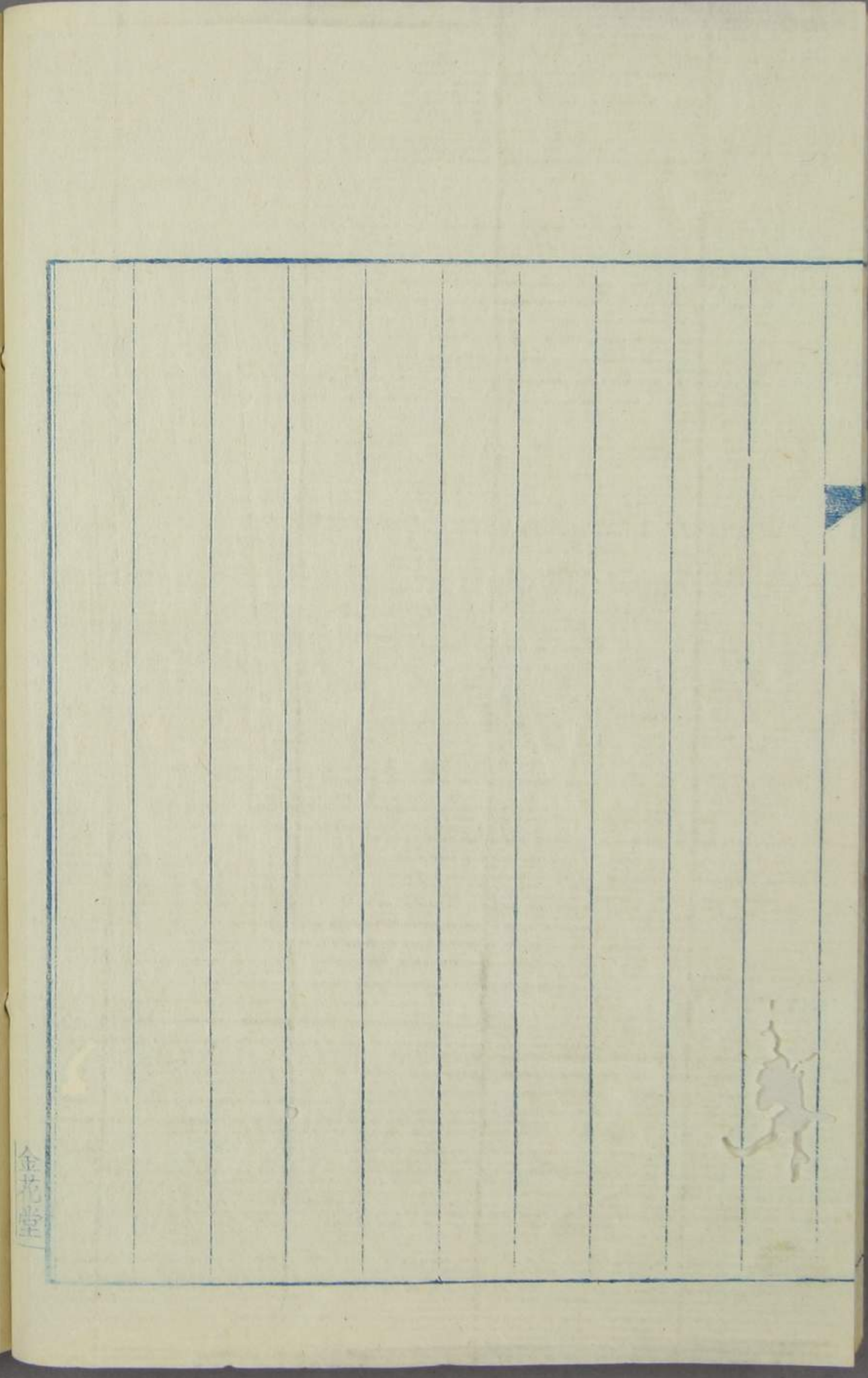
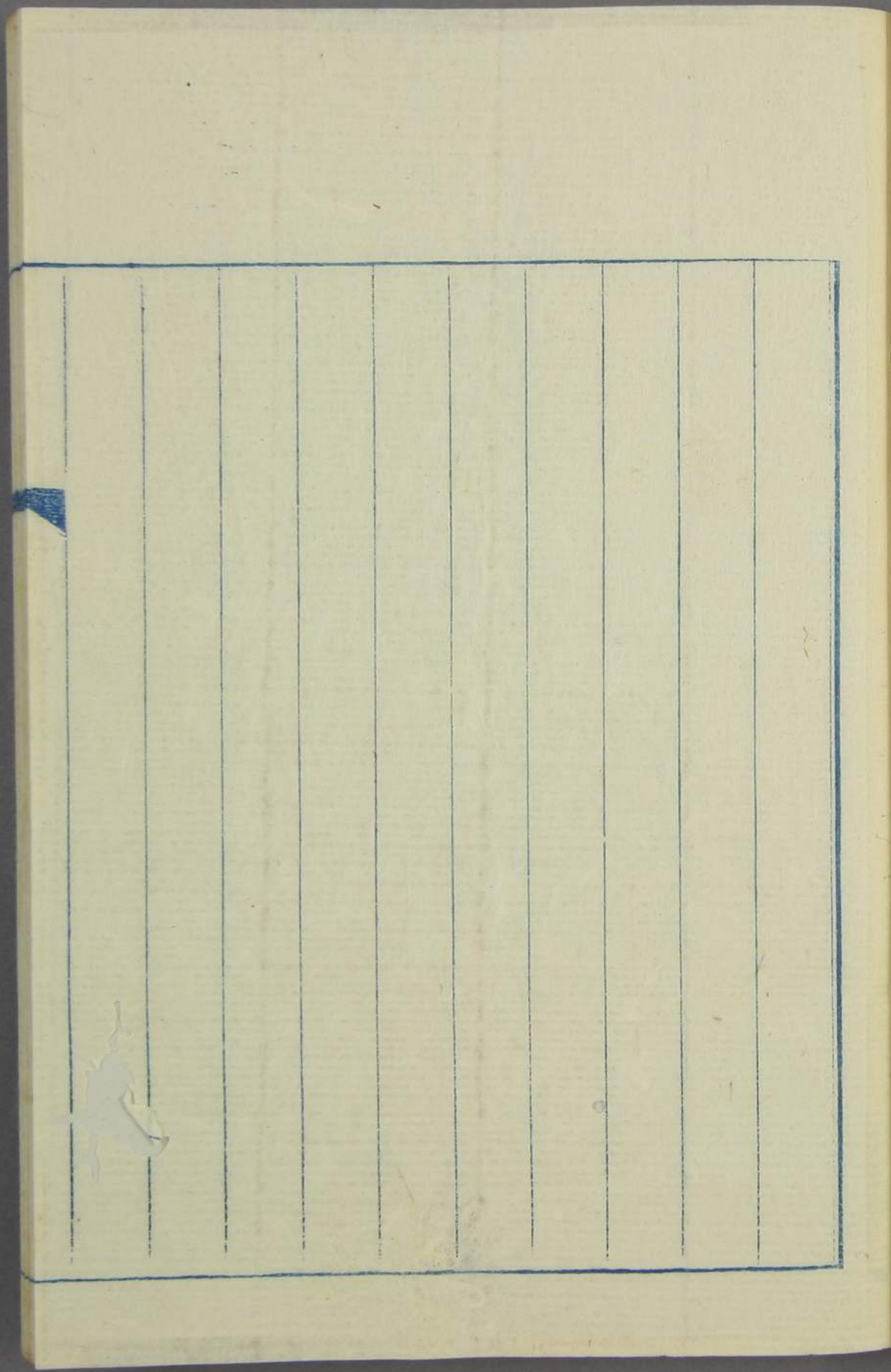
西人撫之事

一銅錢出錢已下英國注文之儀造幣既以

之事

一銅錢先本年中百方斤大鑄造之事





金花堂



金花堂

